

令和6年8月1日

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 2 号

横浜市小学校教育研究会

会長 沼田 留美子

横浜市小学校社会科研究会

会長 高畠 聡

同 学年部長 八木 浩司

【提案日時】

8月 1日 (木)

提案 仲 美祐 先生 (日枝小)

【会 場】

フォーラム南太田

司会 比嘉 将来 先生 (横浜附属小)

記録 阿部 将史 先生 (本町小)

1 提案内容

単元名「水はどこから～安全な水を安定して届ける横浜市の取組～」

2 提案者より

視点①について

・子どもの変容を追う

自分が家ではどんなことに水を使っているのかを調べ、水を様々な用途に使っていることを捉えさせた。また、アンケートや振り返りから、水道水に対する考えの変容を追っていった。

・教材研究の苦労

様々なことを調べたが、子どもの興味を惹けそうなものを見つけることが難しかった。

子どもの実態にも合わせて、水道水とペットボトルの水を比較することにした。

・比較をして追究をする

水道水と水道水以外の飲料水を比較して「におい」「味」「値段」「用途」「対象」などの観点で違いを捉えて追究していくことで、思考の流れが分かりやすくなると思った。

視点②について

・共通の体験

水道水とペットボトルの水の飲み比べをするという共通の体験をすることで、一人ひとりが自分の意見をもてるようにした。

・一人ひとりが生きるような手立て

いろいろな意見を授業に反映できるように子どもの考えを座席表に整理し、子どもが自信をもって発言できるようにコメントを書いたり、声かけをしたりした。また、意図的指名をすることで、誰もが学習に参加しやすいようにした。

3 協議会

視点①について

・共通体験は、誰一人取り残さないための、有効な手立てだった。また、家庭によって飲んでいる水も違うことや、水道水に抵抗がある人もいることから、共通体験はよかった。

・飲み比べの印象が強すぎたため、「用途」に目が向かなかったのではないか。そこに目が向くような、体験・資料などの手立てが必要だったと思う。

・「安心な水」とは何なのか。美味しければ安全な水なのか考えることも必要。

・飲み比べはよい体験ではあるが、単元のどこにもって来るかが難しい。

視点②について

- ・ダムや浄水場のことをしっかりおさえることが大切。事実を基に話せる資料が必要。子どもの思いや浄水場の方の思いだけでは話すことは難しいので、その資料があれば授業者がおさえたいことが発言として出たのではないか。
- ・もう少し早く浄水場の方に出会わせたり、資料を早めに出したりするとよかったのではないか。
- ・3つの飲み物（「水道水」・「ミネラルウォーター」・「湧き水」）を比べると、値段、安全性、味などについてより分かりやすくなるのではないか。

<講師の先生より> 黒田 由希子先生

- ・子どもの振り返りに対して先生が考察をし、そこに手立てを打つというサイクルが抽出児を追っていくのにより手立てだった。
- ・座席表があることで教師の指導性が発揮でき、協働的な学びにつながる。協働的な学びには親和性が大切であり、その親和性がちゃんとあるクラスだった。
- ・「水道水は飲むものではない」という子どもの思いと、「意外とおいしい」という現実にフォーカスしたことによって自分事になっていった。
- ・意図的指名を行うことで、子どもの曖昧な発言が、比較できるものになっていき、事実近づいていった。
- ・どの資料で事実と迫れるのか、資料を吟味することが大切。
- ・4年生は選択・判断がとても多いので、今回の場合では第9時をしっかりとおさえて、選択・判断につなげることが大切。
- ・現代社会の仕組みに子どもたちを連れていくために、飲み比べだけではインパクトが強すぎるので、どのように引き戻すのか、単元配列を考えることが大切。

<講師の先生より> 西川 健二先生

- ・「冒頭から子どもが問いを提示する」ような、子どもから主体的に進めていく授業を。「今日の授業はこれをみんなで解決するんだよね。」と子どもたち同士で話が出てくるような授業をめざしていきたい。
- ・子どもが持ち込んだ資料で授業をすることが大切。また、子どもだけで資料を作ることは難しいので、そこに教師の支援が必要になってくる。
- ・目の前にあるものだけを比較するのではなく、その背後にあるものを考えていくことが大切。（比較思考）
- ・難しいが、社会的事象の意味に迫るために考えていくことが大切。
- ・子どもの思いや願いに寄り添うために、資料をどのように精選していくかを考えていくことが大切。
- ・「見えるもの」（授業で扱う「事実」）から、「見えないもの」を見ていく授業へ。授業で資料を基にみていくことで、水道に携わる方々が果たす役割など、資料からは見えないものが見えてくる授業ができるとうい。そこから子どもたちの話し合いを通して、さらに見えない「こと」が見えてくる。
- ・「（水は蛇口を）ひねったらでできますよね。」という子どもの発言に着目すると、そこから水道事業の役割に気付くことができるきっかけとなる。子どもの一言から、学びにつなげていくことができる。